

与論をどう活性化したらよいか

鹿児島大学 工学部 機械工学科 1年

学籍番号 2512210474

徳田 耕平

はじめに与論は初の訪問であった。本島にフェリーで到着して一番に感じたことは海が本当に綺麗で緑も美しく思っていた通りの光景が目に飛び込んできた。そして失礼なことではあるが携帯電話の電波がLTEでとおっていたことに驚いた。

さてこの3泊4日の講義の中で自分なりに与論活性化についてまとめてきたので記述する。まず与論にはコンビニや日用雑貨店が少なく観光客にとってとても不便であると感じた。実際に自分は夜中に夜食を買いにしようとした際にほとんどの店が閉まっていたことにとても困った。年中は厳しいが観光客の多いシーズンだけでもコンビニを24時間営業にするべきであると考えた。さらに講義最終日お土産を購入しようとした際、マンゴーパイやサツマイモサブレ、与論の塩を使用したチョコレートのお菓子など美味しそうなお土産はあったが「与論といえばコレ！」といったお菓子がほとんどなくお土産選びにとっても迷った。そこで与論のゆるキャラをつくりそのキャラクターのグッズやお菓子をだしていけばと考えた。

次に農業に関してだが主にサトウキビ、サトイモ、インゲン、ニガウリなどを中心に成り立っているようだが、与論で最大の栽培面積を誇るサトウキビも台風の影響を受けやすく、現在ではTPP問題によって厳しい現状にあると思われる。果樹に関してはマンゴーやドラゴンフルーツ、アテモヤなどが有名である。どれも南の島ならではの果物ではあるが正直マンゴーは多くの方が宮崎というイメージを持っているだろう。しかしアテモヤは流通量が少なく全国でも本町と沖縄県や和歌山県の一部でしか栽培されていないので、シーズンは限られてくるがもっと観光客に推していくと良いと思った。

資料にあった旅行者入込調査書を見て考察してみると今年の8月は前年度日が+1300人であった。これは人生ゲームの影響か考えてみたがどうも違うと感じた。8月TVで与論特集を行っていた。このTVを見ていたが、与論に行きたいと感じさせるものであった。この放送後、地元(福岡県)の友人に与論に行くと話したところこの番組を見ていたらしく、羨ましがられた。このようにあの番組は視聴者の心をとらえたものであったと感じる。番組放送後旅行者の入込が増えたものと感じる。放送の際に人生ゲームの島という話があり、この放送で人生ゲームを行っていて楽しそうと感じさせられ、与論に行こうと思った人も少なくはないだろう。このようにメディアの影響は大きいと感じさせられた。この放送をGW前、夏休みシーズン前に行っていたら休みを利用して与論を訪れる観光客ももっと増えていただろう。与論という島はとても小さく、鹿児島、沖縄県民以外の人は与論という島を知らないと感じさせられる。与論という島を知れば必ずと言っていいほど行きたいと

思うはずだ。資料の中に与論にとって観光は非常に重要な産業だという記述がある。与論の観光協会予算は1300万円、TVや雑誌などで与論をアピールするには多くのお金が必要になるが、与論に来て、与論を知ってもらえばまた来る人もいるはずだ。そうすれば最初の投資が大きくても痛くないはずだ。

自分が与論島への観光において最大の課題と考えている本島への交通アクセスについて記述する。与論は離島の中でも本土からとても離れている上に移動手段が少なく時間が掛かる。また悲しいことに沖縄県への移動の方が安く済む。しかしこれらのことはもうどうにもできないことである。そこで奄美、徳之島、沖永良部、沖縄県と連携をとりより多くの観光客を引き寄せることが重要となる。具体的な例は観光協会長さんの講義でもありましたが徳之島、沖永良部、与論の3島で共通の通貨を作り5000円→6000円にしてPRすることだ。とにかく観光客を集めその中からわずかでもリピーターが増加し、口コミで広がることに繋がると考える。また綺麗な海と人のあたたかさがあるので、施設などが必要となるがプロ野球チームやサッカーチーム、マラソン選手の合宿場所としては最適だと考える。もし夏休みに大学のサークルや部活に旅行のプランを提供すれば与論の知名度も上がると思う。

最後に小学生、中学生の頃から島の現状を教えていき、広い世代で与論の将来について考えていくことも大切であると感じた。

これらの意見を実現させるためには金銭的問題が多数あるが島を活気付けるためには多少なりとも投資が必要であると考えた案である。

貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。